

帰国報告書

商学部 3 年 宗竹 陽

1. 出発前の準備

留学の目的と学習計画

留学の目的は大きく 2 つで、1 つ目はネイティブのドイツ人とドイツ語を話し、ドイツ語能力を向上させること、そして 2 つ目が英語で国際マーケティングやマネジメントについて学ぶことです。

入学許可申請

協定校留学をすることが決定したのは、ちょうど 1 年前の春期の終わりでした。協定校であるため、大学を通しての入学許可申請となりました。その後ブレーメン経済工科大学から入学許可証が自宅に郵送されてきました。学生証を交付されるまでは入学許可証がドイツでは身分証明となるので、様々な場面で重宝しました。

外国語能力

ドイツ語検定は出発前の時点で 3 級程度です。

留学費用

留学費用は奨学金、親や親せき、周りの方々からの支援、自分のアルバイトで貯めたお金で賄いました。

奨学金

私は入学当初から日本学生機構の奨学金の交付を受けていたので、それに加えて日本学生機構の海外協定校留学奨学金に申し込み、交付していただきました。さらに明治大学の海外留学奨学金も交付していただきました。

埼玉県民の海外留学のための奨学金「埼玉から世界へ」も申請する条件は満たしていたのですが、そのことに気が付いたとき既に申込期間が終了していました。そのようなこともあるので、奨学金を申請する希望がある場合は、留学を決めたらなるべく早く調べを始めた方が良いと思いました。

健康保険

健康保険はドイツの保険会社で入る必要があります。多くの留学生は AOK か TK で入ります。私は出発前にメールで申請をしましたが、ドイツに来てから大学で申し込みをすることもできます。保険料は一括払いと月ごとに引き落としが選択できますが、引き落としにするとドイツの銀行口座を持つ必要があるため、銀行口座はできるだけ早く作ったほうが便利だと思いました。

ビザ

ビザは Hochschule ではなく、Universität で申請します。到着日から 3 か月以内に申請しな

ければならないのですが、申請するのにパスポート、学生証、住民票、健康保険証などが必要なので、それらがすべてそろったらなるべく早めに申請した方がいいと思いました。また保護者の収入証明が必要なので、日本にいるうちにドイツ大使館に行って発行してもらっておく必要があります。この時保護者自身が同伴する必要があるのですが、平日の限られた時間のみの受付なので、事前に保護者といつ大使館に行くか打ち合わせた方がいいと思います。

2. 協定校での諸手続き

Hochschule では授業が始まる前に、学生証と Semesterticket（電車や Ttam に乗るときに提示するカード）の発行、保険の案内などが、各国からの留学生を集めて英語とドイツ語で並行して行われます。担当のドイツ人はみな英語が堪能です。その後履修登録をしますが、語学の授業（ドイツ語や英語など）は申請用紙に記入して直接担当者に渡すのに対し、専門科目の授業はオンラインでなど、手続きが多少ややこしいです。松井先生という日本人の先生が 1 人いるので、わからないことは松井先生に質問することもでき、安心して履修登録をすることができました。

3. 宿舎と日常生活

宿舎は Hochschule 側から送られてくるリストの中から自分で選んで連絡を取ります。私は最初の 1 週間を中央駅の近くのシェアハウスで過ごし、その後別の家に引っ越してそこに半年間滞在しました。キッチン、シャワー、トイレは隣の部屋に住む学生と共用でしたが、部屋には鍵がついていたのでリラックスできました。大家さんは家族で住んでおり、とても気さくな方でした。英語があまり堪能ではなかったので、基本的に会話はドイツ語でした。

家から大学までの間に Bremen の中心地があるため、生活するのに不自由することはあまりありませんでした。必要なものは手に入りますし、物価もあまり高くはないと思います。また、ドイツ人の友人が買い物についてきてくれたり、イベントを企画してくれたりしたので、休日も充実していました。私は留学前にそのように率先して留学生と接することができなかったのので、少し反省しました。

4. 協定校のカリキュラム・履修した授業、課外活動、留学の成果

ドイツ語能力を向上させる、そして英語で国際マーケティングやマネジメントについて学ぶ、という 2 つの目標を達成するため、ドイツ語と英語の語学コースに加え、英語で行われる International Marketing と International Management、そして Indonesia Rising Economic Power を選択しました。更に毎週 6 人のドイツ人学生と計 12 時間程の Tundem を行い、ドイツ語の授業での質問や日常会話を学習しました。語学の授業は夜なので、昼は専門科目の授業と Tundem をしました。また、間の時間の自習も、すぐに周りのドイツ人の友人に質問できるよう、基本的には大学の食堂で行いました。そのため平日は毎日朝から夜まで大学にすることが習慣になっていました。

ドイツ語はドイツに行く前はリーディングとライティングが主であったため、はじめは会話を続けることができませんでした。語学の授業と Tundem を続けた結果、ドイツ人と簡単な日常会話をすることができるようになりました。特にスピーキング能力が向上したと感じています。

専門科目はすべて英語で行われたため、私にとってはそれも英語力を鍛える一つの大きなトレーニングとなりました。また、様々な国からの留学生が授業に参加していたので、彼らの意見を聞いたり、話し合ったりすることも、日本ではしたことがない体験でした。

5. 帰国準備と帰国後の手続き

帰国する 2 週間ほど前に、住民登録をした場所と同じ場所に行き、日本に帰ることを伝える必要があります。また、保険会社にフライトのチケットを見せるなど明確に自分が日本に帰ることを示しました。保険料の引き落としの継続を避けるためです。銀行口座は窓口であまり時間を取らずに閉めることができたので、帰る前日に閉めました。

帰国後は大学の商学部事務室に帰国の連絡を入れ、帰国報告書の作成や成績のチェックなどを行いました。

6. 商学部学生へのメッセージ

私は明治大学に入学届を出す段階から、ブレーメン経済工科大学への留学を念頭に置きました。ただ、1 年生のうちなどはあまり具体的にビジョンを立てることができませんでした。また、語学の知識も海外で生活するのに十分とは言えなかったように思います。留学に対しては自分が学んでみたい場で学べることが楽しみであった反面、日本から遠く離れた地で生活することに大きな不安を感じていました。しかし実際にドイツへ渡ってみると、日本とは異なる環境で、自分の学びたいことを学び、それを通して交友関係が広がっていくことや、自分の見識が広がっていくことを強く感じることができました。人生で一番充実した半年だったのではないかと感じています。現地の友人をたくさん作り、臆せずに話し、互いの国や言語について教え合ったことが、このような充実した日々を作り上げる基盤になったのではないかと考えます。もし今留学をすることを悩んでいる学生がいるとしたら、私は何のためらいもなく留学することを勧めます。そして様々な人に頼り、声をかけてみることを勧めます。それくらい、この半年で異なる文化の中で学んできたことは、これからの人生の糧になるだろうと感じているのです。